

第1回システムガバナンスの在り方に関する検討会議事要旨

1. 会議の概要

日時：2019年2月28日(木) 11:00 ～ 13:00

場所：PwC 大手町オフィス 大手センタービル 2F Room G

2. 議事要旨

本検討会で目指すゴールについて

- ✓ DX を経営課題として位置付けられるようにするには、経営陣の意識を変えるということ趣旨とした内容とすべきである。
- ✓ DX 推進に向け、どの対象（社会全体と個社（個社の場合は組織内の誰か）、又は双方）をどう動機づけるかを明確にすべきである。
- ✓ グローバル企業を対象とするのか、中小企業を対象とするのか、全企業を対象とするのかを明確にすべきである。
- ✓ 「IT ガバナンス」という既存の表現を使うと、主体によって特定の解釈をされてしまうおそれがあるため、「デジタルガバナンス」という表現に統一して検討を進めてはどうか。
- ✓ DX 推進が必要となる企業や業界を示すベンチマークとなるものを設定できないか。
- ✓ 評価結果が数値化されるようにできないか検討してほしい。

評価軸案について

- ✓ 一定のリスクテイクを求める項目を含めるべきである。
- ✓ 企業により事業の多様性に差があり、100点となる基準は個社や業界毎で異なるため、要素や特性で一概に評価できない。
- ✓ DX 推進は技術的課題とはせず、業務・組織と密接に関係した課題と捉えるべきである。
- ✓ 評価軸にはプロセス的な項目だけではなく、プロセス以外の項目（人材・文化等）も必要である。
- ✓ 適応性という要素があるが、デジタル環境に順応する組織能力を測るという意味で重要な観点である。
- ✓ 負の IT 資産の評価は、経営者のみでなく社会的に受けられる分かりやすさが必要ではないか。
- ✓ 保有している IT 資産がリスクであると示せるという意味で、情報セキュリティリスクは評価軸として重要である。

レガシーシステムについて

- ✓ DX 推進を妨げ得るレガシーシステムを評価する項目もあってはどうか（又は「技術的負債」として評価してはどうか）。
- ✓ レガシーシステムは相互運用性がなく、改修の際にも多くの工数が必要となり、ビジネスモデル転換の足枷となる。
- ✓ レガシーシステムがデータ活用の足枷になっていることはあまり認知されておらず、データ活用の観点の評価を含めることも重要である。

制度的措置について

- ✓ DX 推進のためにはアメとムチに相当する政策が必要となり、アメのための評価とムチのための評価は異なるものとなるはず。古いシステムを持つことをムチで規制していくという社会的コンセンサスを作ることが必要である。
- ✓ 短期的利益のために減価償却済みのシステムを使い続けることに関し、マイナス評価するための材料が必要である。
- ✓ 評価基準を作成し、提示しても活用する企業は限られるため、企業が普段行う業務に結び付けて評価できるようにするべきである（例えば、P/L や B/S の明細を入力すると自動でレガシーシステムを特定できるサービスの提供）。

その他

- ✓ 動機づける方法を明確にするためにも経営者の DX 推進に向けた意思決定を妨げている真因を調査すべきである。
- ✓ 本検討の最終成果物を紹介する文章を作成することで、ゴールを明確化してはどうか（社会的インパクトがあること、又は利益増加に繋がることを明記）。

以上

お問い合わせ先

商務情報政策局 情報技術利用促進課

電話：03-3501-2646

FAX：03-3580-6073